

1 教育課程実施上のポイント

(1) 目標

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

①目標の改善

- ・生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力の育成を一層重視した。
- ・育成を目指す資質・能力を、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。
- ・図画工作科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「造形的な見方・考え方」を働かせることを示した。
- ・育成を目指す資質・能力の三つの柱のそれぞれに「創造」を位置付け、図画工作科の学習が造形的な創造活動を目指していることを示した。

②図画工作科において育成を目指す資質・能力

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える形や色などの造形的な視点について理解すること など ・感性を働かせたり経験を生かしたりしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫するなどの創造的な技能を身に付けること など 	<ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力を働かせて、<u>形や色</u>などの造形的な視点で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、創造的に発想や構想する力 など ・感性や想像力を働かせて、<u>形や色</u>などの造形的な視点で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、自分たちの作品や美術作品などについての自分の見方や感じ方を深め、味わう力 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な対象や事象を心に感じ取る感性 ・感性を働かせながら味わう、つくりだす喜び ・造形的な創造活動に主体的に取り組む態度 ・<u>形や色</u>などにより、生活を楽しく心豊かにする態度 ・<u>形や色</u>などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度 ・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操 など

※下線部は、現行の学習指導要領に示している〔共通事項〕と関連する箇所

(2) 実施上のポイント

①改訂のポイント

- ◇表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを一層重視し、目標及び内容を改善・充実する。
- ◇造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう、目標及び内容を改善・充実する。

②内容の構成（内容項目及び事項）の改善

◇三つの柱に沿った資質・能力の整理を踏まえ、内容構成を改善した。

A表現（１） 発想や構想に関する項目	ア 造形遊びをする活動を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」 イ 絵や立体、工作に表す活動を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」
A表現（２） 技能に関する項目	ア 造形遊びをする活動を通して育成する「技能」 イ 絵や立体、工作に表す活動を通して育成する「技能」
B鑑賞（１） 鑑賞に関する項目	ア 鑑賞する活動を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」
〔共通事項〕（１）	ア「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して育成する「知識」 イ「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」

③見方・考え方について

◇図画工作科における「造形的な見方・考え方」

- ・感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと。

深い学びの鍵となるのが
「見方・考え方」です。



◇〔共通事項〕を「造形的な視点」を豊かにするために必要な「知識」と「思考力、判断力、表現力等」の観点から整理

〔共通事項〕（１）	ア 自分の感覚や行為を基に、形や色などの造形的な特徴を理解すること ＝「知識」
	イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと ＝「思考力、判断力、表現力等」

④主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

◇指導計画作成上の配慮事項

- ・題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにする。その際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図る。

「主体的な学び」 の視点（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験を生かすことのできる学習の充実を図る ・自分の活動を確かめたり振り返ったりするような場面を設定し、造形的な創造活動における自分の成長やよさ、可能性などに気付き、次の学習につなげられるようにする
「対話的な学び」 の視点（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で材料や場所、作品と向き合うなどの自分との対話を大切にしつつ、子どもが自分の「見方・考え方」を働かせて、表したいことや用途、材料や場所の特徴、表し方などについて、お互いの活動や作品を見合いながら考えたことを伝え合ったり、感じたことや思ったことを話したりするなどの言語活動を一層充実する ・教員との対話、子ども同士の対話だけではなく、保護者や地域、社会の人と交流する機会を設定する
「深い学び」 の視点（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な創造活動において、つくりたいことや表したいこと、見たいことなど、子どもが自ら課題を見付けることを重視している学習であることを踏まえる ・育成する資質・能力を明確にし、それらの資質・能力を相互に関連して働かせることができる活動を設定する ・子どもが自ら学びを深めていくことができるように、「つくり、つくりかえ、つくる」という学習過程を重視する ・子ども自身が学びの実感をもつことができるように、教員が教える場面と子どもたちが「見方・考え方」を働かせて友だちと共に学び合う場面との関連を考え、授業設定をする

⑤移行措置について

◇平成30年度及び平成31年度の第1学年から第6学年までの図画工作の指導に当たっては、現行小学校学習指導要領第2章第7節の規定にかかわらず、その全部又は一部について新小学校学習指導要領第2章第7節の規定によることができる。

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

◇形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを大切に、「造形的な見方・考え方」を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させながら育成できるように、指導展開が工夫されている例である。↳(※題材の指導計画の中に波線で示す)

◇子どもが自ら学びを深めていくことができるように「つくり、つくりかえ、つくる」という学習過程が大切にされている。

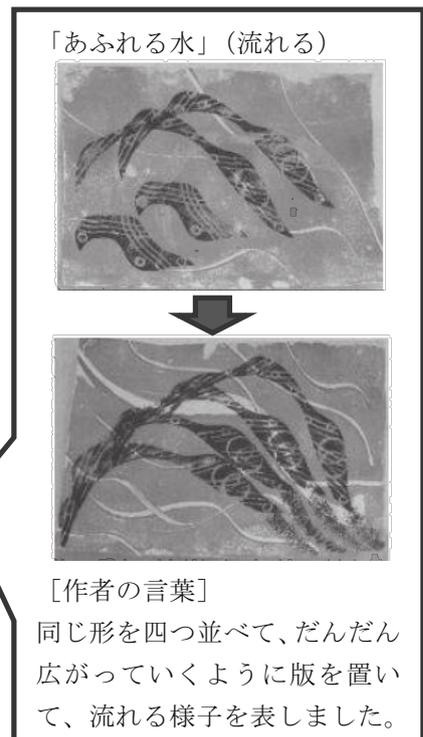
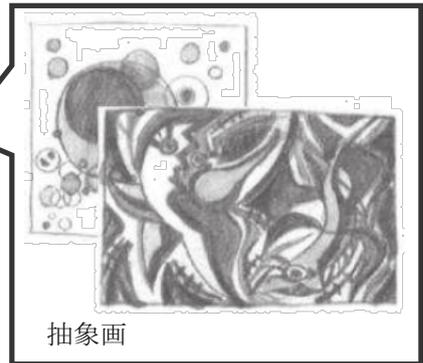
(1) 題材名「版を生かして～版に表すおもしろさを味わおう～」(全8時間)(第6学年)

(2) 題材のねらい

彫りや刷りの効果を試しながら、自分が表したいことに合った版づくりや色づかいを工夫し、自分の思いを版に表すことができる。

(3) 題材の指導計画

時間	学習のねらい・学習活動 「●」は学習のねらい 「・」は学習活動
第1・2時	1・2 版づくりを試す。 ●版に表すおもしろさを感じながら版づくりを試す中で、表し方による色や形の違いに気付くことができる。 ・クリアファイルを使って版づくりを試す。 ・スチレンボードを使って版づくりを試す。
第3時	3 <u>抽象画の鑑賞をし、表したいことを考える。</u> ●表したいことを考えることができる。 ・版づくりを試して気付いたことを発表する。 ・ <u>抽象画を鑑賞し、「落ちる」「ゆれる」「はじける」といった動詞を表す言葉をもとに表したいことを考える。</u> ・色画用紙を使って、表したいことに合う形を考えて切る。
第4～7時	4 クリアファイルを使って版に表す。 ●クリアファイルを使って自分が表したいことに合った色づかいや版づくりを工夫し、版に表すことができる。 ・表し方を工夫しながら、クリアファイルを使って版に表す。 5・6 スチレンボードを使って版に表す。 ●スチレンボードを使って自分が表したいことに合った版づくりをし、表し方を工夫して版に表すことができる。 ・色画用紙をもとに表したい形や色のバランスを考えながら、スチレンボードを使って版づくりをする。 ・色づかいや配置、版の重ね方などを工夫しながら、つくった版を使って刷る。 (本時) ・ <u>製作途中の作品について友だちと話し合う。</u> 7 作品を完成させる。 ● <u>友だちと話し合ったことを生かしながら作品を完成させることができる。</u> ・表したいことを再度意識しながら作品を完成させる。 ・タンボやスパッタリングなどの工夫も取り入れてみる。
第8時	8 作品鑑賞会をする。 ●作品を鑑賞し、よさを感じ取ることができる。 ・友だちと互いの作品を鑑賞し、話し合う。



(4) 授業展開例

①本時の目標

自分が表したいことに合った色づかいや配置、版の重ね方など表し方を工夫し、版に表すことができる。

②展開例 (第6時/全8時間)

学習活動	○主な発問・予想される児童の反応	・留意点○評価【観点】(方法)*手立て
1 本時のめあてをもつ。	○スチレンボードを使って版づくりを試したときの作品を見る。 ・同じ形の版でも色が違うと雰囲気が違うな。 ・順に並べると動いているみたいになるな。 ・版を重ねるとおもしろいな。	・表し方を工夫していけるよう、 <u>色づかいや配置、版の重ね方を考えるきっかけになるような作品を提示する。</u>
表し方を工夫しながら刷ろう。		
2 スチレンボードの版を使って刷る。	○自分が表したいことに合った色づかいや配置、版の重ね方など表し方を工夫しながら刷ってみましょう。	・色づかいや配置、版の重ね方など、 <u>表し方の工夫につながる視点を視覚的に示し、意識できるようにする。</u> ・版を繰り返し使う際のインクの落とし方や違う色のインクを使用する際の注意などを確認しておく。 ・製作途中で新たな版をつくって足すなど発想を広げたり、変えたりしてもいいことを伝えておく。
【10の視点】 ②体系的な学習の充実	子どもが自ら学びを深めていくことができるように、指導者が活動における子どもの具体的な姿をイメージして、 ・環境設定(材料や場所)・時間設定 ・適切な声かけ 等の手立てを工夫します。	
	・背景が濃い青色だから、スチレンボードの版は明るい色で刷ってみよう。 ・同じ色を使う方が連続して「ながれる」感じになるかもしれない。 ・同じ版でも違う色にしたら雰囲気が変わっておもしろいかもしれない。 ・「はじける」感じだから、端から順に並んでいるようにしてみよう。 ・草が「ゆれる」感じが出るよう、同じ版を少しずつずらして刷ってみよう。 ・版の向きを思い切ってずらして重ねてみると「まわる」感じが出るかな。	○形や色の配置、版の重ね方など、表し方を工夫しながら版に表している。 【創造的な技能】(観察・作品) *表し方の工夫を意識していない様子の児童には、 <u>板書してある工夫につながる視点を意識するよう、個別に声かけをする。</u>
3 友だちと製作途中の作品を鑑賞し話し合う。	○できたところまでの作品を鑑賞してみましょう。 ・版の重ね方で「はじける」感じがすごく伝わってくるよ。 ・もっと「ながれる」感じを表すにはどうしたらいいのかな。	【10の視点】 ⑥学び合う活動の充実
4 振り返りをする。		材料や表現方法などについて、共通の視点をもって作品を見ることで、 <u>新しい気付きにつながります。</u>
		導入で視覚的に示した表し方の工夫につながる視点をもとに話し合わせる。 ・自分が満足しているところや困っているところ、友だちの表し方でいいなと感じるところなどを発表させる。 ・本時のめあてに対する振り返りをさせ、次時の活動を確認する。



“色は？位置は？形は？”など、ねらいに対する「造形的な視点」を明確に示すことで、「深い学び」につながります。

1 教育課程実施上のポイント

(1) 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

①目標の改善

- ・美術は何を学ぶ教科なのかということを示した。
- ・感性や想像力を働かせ、造形的な視点を豊かにもち、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを一層重視した。
- ・育成を目指す資質・能力を明確にし、生徒の発達の段階や特性等を踏まえつつ、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。

②美術科の目標を三つの柱で整理

(1)「知識及び技能」	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な視点を豊かにするために必要な知識 ・表現における創造的に表す技能
(2)「思考力、判断力、表現力等」	<ul style="list-style-type: none"> ・表現における発想や構想 ・鑑賞における見方や感じ方
(3)「学びに向かう力、人間性等」	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に主体的に取り組む態度や美術を愛好する心情、豊かな感性や情操

※(1)(2)(3)を相互に関連させながら、資質・能力を育成することが重要

③美術科において育成を目指す資質・能力

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について実感的に理解を深めること など ・感性や造形感覚を働かせて、材料や用具を生かし、表現方法を工夫して創造的に表すこと など 	<ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力を働かせて、造形的な視点で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、豊かに発想し、創造的な表現の構想を練ること など ・感性や想像力を働かせて、造形的な視点で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、美術や美術文化などについて自分の見方や感じ方を深め、味わうこと など 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な対象や事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性 ・美術の創造活動の喜び ・美術の創造活動に主体的に取り組む態度 ・美術を愛好する心情 ・形や色彩などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度 ・美術文化の継承と創造への関心 ・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操 など

※下線部は、現行の学習指導要領に示している〔共通事項〕と関連する箇所

(2) 実施上のポイント

①改訂のポイント

- ◇感性や想像力等を働かせて、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう、内容の改善を図る。
- ◇生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深める学習の充実を図る。



深い学びの鍵となるのが「見方・考え方」です。

②見方・考え方について

◇美術科における「造形的な見方・考え方」

- ・美術科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として、表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくり出すこと。

造形的な視点とは＝「造形を豊かに捉える多様な視点」	
対象などの形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉える視点 → 木を見る視点	対象などの全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉える視点 → 森を見る視点

◇〔共通事項〕を「造形的な視点」を豊かにするために必要な知識として整理

〔共通事項〕	(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して指導する	ア 形や色彩などの性質や感情にもたらす効果の理解	知識
		イ 全体のイメージや作風などで捉えることへの理解	

③主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

◇指導計画作成上の配慮事項

- ・題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにする。その際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図る。

「主体的な学び」の視点 (例)	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実させることで、美術を学ぶことに対する必要性を実感させ、目的意識を高める ※「A表現」(1)において、「ア感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想」及び「イ目的や機能などを考えた発想や構想」の全ての事項に「主題を生み出すこと」を位置付けた
「対話的な学び」の視点 (例)	<ul style="list-style-type: none"> ・自己との対話を深めることや、〔共通事項〕に示す事項を視点に、表現において発想や構想に対する意見を述べ合ったり、鑑賞において作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合ったりする活動の充実を図る ※授業改善や、より「思考力・判断力・表現力等」を育成する観点から、言語活動を「B鑑賞」はもとより、「A表現」においても充実させる
「深い学び」の視点 (例)	<ul style="list-style-type: none"> ・「A表現」と「B鑑賞」の相互の関連を十分に図り、学習の効果が高まるように指導計画を工夫する ・〔共通事項〕ア、イが、表現及び鑑賞の活動の中で造形的な視点として豊かに働くようにどの場面でもどのように指導するのかを明確に位置付け、生徒が形や色彩などに対する豊かな感覚を働かせて学習に取り組むことができるようにする

④移行措置について

- ◇平成30年度から平成32年度までの第1学年から第3学年までの美術の指導に当たっては、現行中学校学習指導要領第2章第6節の規定にかかわらず、その全部又は一部について新中学校学習指導要領第2章第6節の規定によることができる。

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

◇感性や想像力等を働かせて、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう、題材など内容や時間のまとまりを見通して、表現と鑑賞の指導の関連を意図的に仕組み、指導展開が工夫されている例である。

◇自己との対話を深めたり、「造形的な視点」を基に自分の価値意識をもって批評し合ったりする「対話的な学び」を充実させている。

(1) 題材名「ミロのヴィーナスの魅力に迫る」(全3時間) (第3学年)

(2) 題材のねらい

造形的なよさや美しさについて考える中で作者の心情や表現の意図、創造的な工夫を理解し、美に対する感性を高め、造形に対する見方・考え方を深める。

(3) 題材の指導計画

【題材に向かう準備】

夏休みの課題 (調べ学習)	<p>○作品誕生の時代背景、作者の制作意図、創造的な表現の工夫について調べる。</p> <p>①ヴィーナスとは？ギリシャ神話との関連性は？</p> <p>②ヴィーナスの「形」と作者の発想(意図)は？</p> <p>③彫刻作品のよさとは何か？(絵画作品と比較して)</p>
------------------	---

年間指導計画の中で、学習の積み上げが大切です。

本題材に向かう下準備として個の学びを深める活動を意図的に仕組み、主体的な学習意欲につなげます。



【本題材の指導計画】

時間	学習活動
1時	<p>○作品誕生の時代背景、造形上のよさや美しさ、作者の表現意図などを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの課題を基に、ミロのヴィーナスの魅力について考える。 ・ギリシャ時代の「美しさの条件(美しさの定義)」について知る。
2時 (本時)	<p>○知識(情報)を活用して「美しい腕の形」を創造して伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの課題→前時の学習を基にDVDを鑑賞し、さらに知識を深める。 ※「美しさの条件」を視点に鑑賞し、新たな気づきを得る。 ・DVDの中に出てきた“りんご”を一つのテーマにし、「りんご」を持ったミロのヴィーナスの腕の形を考える。 ※個人→グループの順で考えを深める。 ※ホワイトボードに描いたり、実際にりんごを持って身体で表現したりして「美しい腕の形」を考える。 ・「創り出した腕の形」について根拠を基に発表する。(グループ発表)
3時	<p>○自分が考えるミロのヴィーナスの魅力について記述して伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で学びを振り返り、レポートを書く。 ・友だちの見方・考え方にふれ、造形への関心をさらに深める。

【次題材へのつながり(鑑賞→表現)】

「篆刻」の制作	<p>○篆刻の「持ち手」の部分(彫刻)のデザインを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「形の美しさ・持ちやすさ」をテーマに、前題材で学んだ、面、量、形、バランス、動き等、「造形の美しさ」を追求することを大切にして、デザインを考える。
---------	--

鑑賞で学んだ知識や、「対話的な学び」の中で深めた造形に対する自己の「見方・考え方」を次題材の表現の活動に生かします。



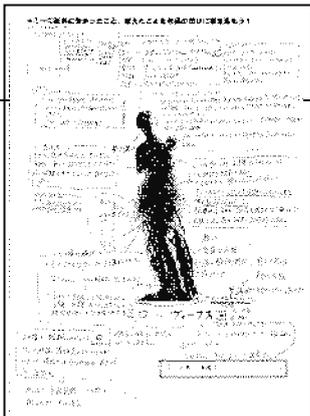
(4) 授業展開例

①本時の目標

学んだことを活用して「美しい腕の形」を創り出して伝えることができる。

②展開例 (第2時/全3時間)

学習活動	○主な発問と・予想される生徒の反応	・留意点 ○評価【観点】(方法)*手立て
1 前時の学習内容を復習する。	○前時の学習で印象に残ったことは何か。 ・誕生のいきさつ・八頭身・作者の名前 ・発見場所・形の複雑さ (S字にカーブ)	・既習事項を振り返りやすいようにキーワードで示す。
2 本時目標の確認をする。	「美しい腕の形」を創り出して伝え合おう。	
3 彫刻作品の鑑賞の視点を確認してDVDを見る。	○本物の作品がどのようなものか鑑賞しよう。 ○前時に学習した、「ギリシャ時代の「美しさの条件」を視点に、ワークシートにメモを取りながら見よう。 ・メモを取りながら知識(情報)を得る。	・鑑賞の視点を与えることで主体的に鑑賞できるようにする。「形の美しさ」「ギリシャ時代の芸術家のこだわり」を思考させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 【10の視点】 ③資料の活用 </div> <p>前時の学習からさらに知識を深め、個の見方・考え方を広げます。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 「美しさの条件」※面、量、形、バランス、動き等 ・部分と全体の調和(比例関係による造形の美しさ) ・動きの導入(S字にひねった身体の曲線の美しさ) ・写実的理想主義(衣装など線による表現の美しさ) </div>	
4 「りんご」を持った「美しい腕の形」をグループで創り出す。	○鑑賞した中に重要な情報があった。何か。 ・りんごと一緒に発見されていた。 ○前時で学習した「美しさの条件」を意識して、どんな風りんごを持つと「美しい腕の形」となるのかグループで考え、発表しよう。 ○構想を練るためにホワイトボードやりんごを発表で活用しよう。 ※発表時に「創り出した形の根拠」も発表することを確認する。 ・黄金比・S字に湾曲・動きの導入・部分と全体の調和等を意識してヴィーナス図を描いたり、腕の形の根拠を考えたりする。	○主体的に関わり合っ て腕の形を創造し、「美しさの根拠」を伝えている。 【鑑賞の能力】 (観察・ワークシート) *説明(言葉)に困った時は、板書にある視点「美しさの条件」を意識させるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 【10の視点】 ⑥学び合う活動の充実 </div> <p>個人で考える(ワークシート) ↓ グループで考える(ホワイトボード、実際にりんごを持って身体で表現)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 【10の視点】 ⑥学び合う活動の充実 </div> <p>個の考えを基に、新しい考えを、みんなで生み出す活動を設定します。学んだ知識を活用し、「造形的な視点」=「美しさの根拠」を大切に学びを深めます。</p>	
5 グループで考えた「美しい腕の形」を伝え合う。	○グループで考えたことを発表しよう。	・自己の「見方・考え方」と比較させながら、発表を聞かせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 【10の視点】 ⑤説明・発表の機会の充実 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 【10の視点】 ⑤説明・発表の機会の充実 </div> <p>より多くの(他者)の考えにふれる機会を設定し、さらに自己の「見方・考え方」を深めます。</p>	
6 学習の振り返りをする。	○根拠を示しながら「美しい腕の形」を創り出すことができたか、また、グループで関わ合いながら活動することで、自己の見方・考え方を深めることができたか振り返ろう。	・本字のねらいに対する振り返りをさせる。



調べ学習



ホワイトボード



発表の様子

一人一人が感性や想像力を働かせて「造形的な視点」について理解し、表現したり、鑑賞したりする喜びにつながっていくことが大切です。

